自由民主党神戸市会議員団 市政報告
神戸市会議員 神戸市会 総務財政委員長
2022年 vol.37

かわなみ ただかず《中央区》

"わかりやすい!"をモットーに
神戸市政に関わる
トピックをお伝えします!

令和4年3月4日、河南(かわなみ)が予算特別委員会(第3分科会)にて教育委員会に対し質疑させていただいた内容を報告します。

今回の報告

学校の問題

不登校 給食 PTA

神戸市の中学生の不登校数が多いんです!
20指定都市の市立中学で、大阪市に次いで **ワースト2**

かわなみ質疑 不登校の児童・生徒数が多い要因と児童・生徒への対応について

令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況についての調査結果（下記メモ参照）によると、神戸市の不登校児童生徒数が全国、兵庫県、指定都市の平均と比べて高い数値となっています。この要因についてどのように考えているのか、また、不登校児童・生徒数の増加に対してどのように対応しているのか、見解をお伺いします。

かわなみMEMO

不登校多い順

令和2年度
児童生徒の問題行動・不登校等の状況についての調査結果

不登校の児童・生徒
小学生、中学生、高校生の合計
2,825人
300人以上の増加!
令和元年度 2,512人
その内、神戸市の不登校児童生徒数は全国、兵庫県、指定都市の平均と比べて高い数値で報告されています

指定都市別（指定都市立小・中学校）
1,000人当たりの不登校児童生徒数（人）

	小学校		中学校	
1	福岡市	12.8	大阪市	64.8
2	堺市	12.6	神戸市	55.8
3	熊本市	12.5	札幌市	55.3
	⋮		⋮	
9	神戸市	11.3		
	⋮		⋮	
20	北九州市	6.7	さいたま市	29.5
		10.9	令和2年度平均	46.4
		9.2	令和元年度平均	45.6

河野教育委員会事務局担当部長からの答弁

考えられる要因
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う学校生活が大きな影響を受けたことなどにより、児童・生徒の生活リズムが乱れやすくなった
- フリースクール等の学校以外の学びの場が増加したことによる、保護者本人の学びに対する考え方の変化

神戸市での対応・対策

●くすのき教室を市内8か所に設置
不登校児童・生徒に対し、学習指導や体験を通した指導を行う『くすのき教室』を市内8か所に設置し、児童・生徒の社会的自立に向けて、1人1人に寄り添った支援を行っている。

●校内の別教室を利用した学習指導
ほとんどの中学校においては、校内の別教室を利用して、教室に入りたくても入れない生徒を対象に、個々の状況等に応じた学習指導などの取組を行うことで、1人1人に寄り添った支援に努めている。

●不登校コーディネーターの増員
不登校に至った要因、背景にも即した適切な支援、働きかけが必要と考えている。令和4年度予算案に、不登校コーディネーター1名を増員する予算を盛り込んでいる。

不登校コーディネーター2名体制のうち、1名は不登校児童・生徒を対象とした支援や対応、もう1人につきましては、新たな不登校が生じない学校づくり、いわゆる魅力ある学校づくりの具体化に向けた取組を強化していきたい。

かわなみ質疑 登校することの意義を保護者に発信することも必要では?

この調査による不登校の要因を神戸市の小学生で見てみると、『無気力、不安』が41.9%、『親子の関わり方』16.3%、『生活リズムの乱れ、遊び、非行』が14.4%となっており、学校生活が要因となっている割合はあまり多くないように見えます。また、その他の長期欠席の具体例として、保護者の教育に関する考え方、登校についての無理解との記載もあり、家庭や保護者の考え方が不登校、長期欠席に結びついている事例が多いのではないでしょうか。

河野教育委員会事務局担当部長からの答弁

児童・生徒が不登校になってからの事後的な取組だけではなく、児童・生徒が不登校にならない、魅力ある学校づくりを目指すことが重要であるとされている。（かわなみ）委員の『学校が社会性を身につける場である』といった視点も、この魅力ある学校づくりの重要な要素として取り組んでいきたいと考えている、また、今後設置予定の検討会においても、（かわなみ）委員の『保護者への発信』といった視点についても議論を重ねていきたい。

かわなみの視点

小学生の最初の社会は『子供と保護者の関係』で、『最初で最小の社会』でもあります。子供の考え方、立ち居振る舞いにも大きく影響を与えます。学校で先生や他の生徒と交わることで、家庭以外の社会に触れます。学校が勉強する場だけでなく、社会性を身につける場であることなど、登校することの意義を保護者に発信することも必要かと思います。

かわなみの視点

魅力ある学校の中の1つが『先生の魅力』だと思います

不登校の背景に『いじめ』や『友達関係でのつまづき』等があるかもしれません。その端緒をまず感じて、指導するのが先生であり、親であると思うのです。コーディネーターを1名増やすという方針もありますが、魅力ある学校づくりには、まず先生の児童・生徒への接触というか、人間力というか、そのあたりが非常に重要になってくると思います。

最終ページに「加納町3丁目交差点 東西横断歩道」進捗お知らせがあります

かわなみ注目 進捗トピックス!

加納町3丁目の交差点に東西方向の横断歩道ができます!

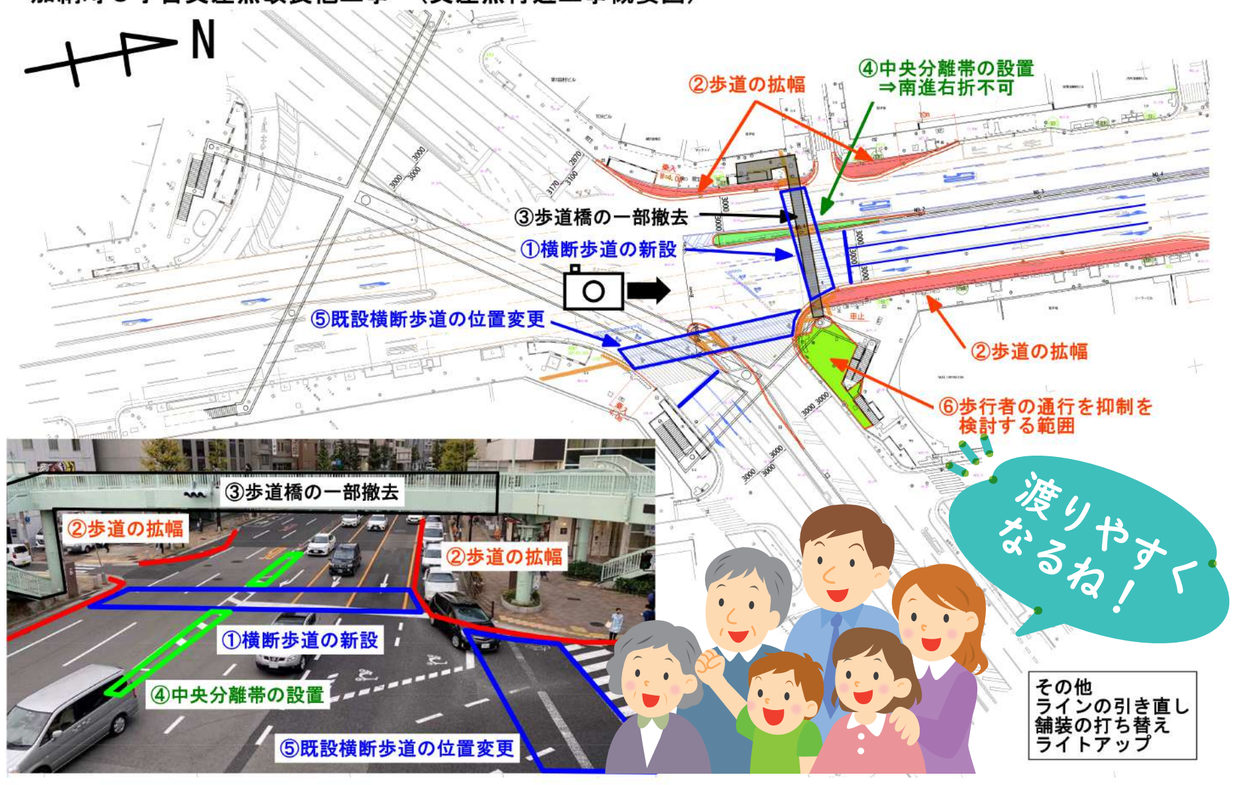
かわなみ（河南）が長年声をあげ続け、そして地域の皆さまの長年の願いであった『加納町3丁目の東西横断歩道』がいよいよ着手される予定です。

令和3年度中の完成予定でしたが、工事業者の選定等で延期になっておりました。
いよいよ5月に工事着工し、令和4年の秋口には完成を予定しております。
課題であった加納町3丁目の南北への歩行が改善されることを期待しましょう!

（令和4年3月現在の見込み）
- 北側の東西方向に横断歩道を設置
- 北側の東と西の歩道を拡張
- 中央分離帯を設置
- 歩道橋を一部撤去
- 既存横断歩道の位置変更

かわなみ市政報告vol.32でも報告していた
加納町3丁目交差点の東西横断歩道の進捗お知らせ

加納町3丁目交差点改良他工事 （交差点付近工事概要図）



道路整備や街の美化、公園、交通機関など
暮らしの中で気になるチョット不便に思うこと、
お住まいの地域のこともぜひお聞かせ下さい。

編集後記

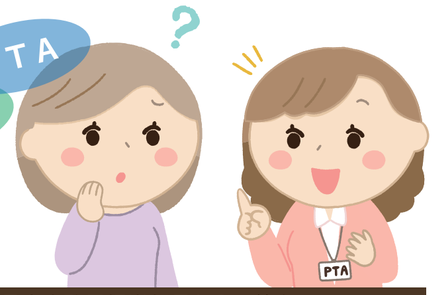
今回は教育委員会への質疑を中心にご報告しました。
不登校の多さの問題を保護者からお聞きし、数字を調べてみると、中学生においては、20指定都市の中で、ワースト2であったことには驚きでした。これは、子供だけの問題だけではなく、保護者や社会の問題として受け止めなくてはならないと思います。学校環境の改善について、どうぞ河南（かわなみ）までお声をお寄せください。
加納町3丁目の横断歩道完成もご期待ください! ～かわなみ ただかず～

発行：自由民主党神戸市会議員団 かわなみ市政報告vol.37 編集：2022年（令和4年）3月
〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市役所1号館28階 TEL.078-322-5846
【かわなみ事務所】〒651-0095 神戸市中央区旭通2-3-5 TEL.078-806-8633 FAX.078-806-8653
■ contact@55kawanami.com ■ http://www.55kawanami.com
神戸市会議員 自由民主党神戸市会議員団
かわなみ ただかず《中央区》

令和4年3月4日　河南（かわなみ）が予算特別委員会にて教育委員会に対し質疑させていただいた内容を報告します。

学校の問題

不登校　PTA　給食



かわなみ質疑　不登校数がワースト２について

神戸市では、中学校の不登校は全国平均より大幅に高く、20 指定都市の市立中学で大阪市に次いでワースト２という不名誉な結果です。中学生の不登校の増加に関してどうお考えでしょうか。まず、全国平均より不登校児童・生徒の割合が神戸市は高いことをいま一度認識して、改善につなげてほしいと思います。

子どもが何かの理由で学校に行くのをぐずっても、親は仕事に出かけなければならず、子どもに真正面から向き合う余裕が無い。このようなシーンを経験された保護者の方も多いかと思います。

学校を休むということは、
親にとっても子どもにとっても
心理的に大変なハードルだったと記憶がありますが、
今は、アプリのクリック１つで遅刻や病欠が報告できます。

かわなみの視点

簡単に使えるアプリの手軽さが、簡単に子供の欠席をスタートするきっかけにはなっていないでしょうか。簡単に欠席が続き、やがて不登校に。そうなる前に『行きたくない理由は何なのか？』を、保護者や担任の先生は向き合う必要があると思います。

『子は親の心を実演する名優である』という言葉がありますが、親の考え方は子どもの成長に大きく影響するものと思います。教育は学校や教育委員会だけにお願いするものではなくて、家族、そして社会を形成する我々の問題、我々１人１人の問題が子どもの不登校などの原因になっていると思います。不登校は学校だけの問題として捉えるのではなく、社会、家庭、学校や先生の問題としても、根気強く改善していくことを共通の認識として捉えていただきたいと思います。

河野教育委員会事務局担当部長からの答弁

神戸市の不登校の主たる要因、特に中学校においては、友人関係をめぐる問題や学業の不振が全国平均より高いという全国的な傾向との違いが結果にあった。

不登校の数が非常に増えていることについては、『生活の乱れ』というようなところもあるのかもしれませんが、今、指摘にあったような、『普段の学校の教員の働きかけ』は非常に重要になってまいろうかと思っており、このあたりについても、教員に研修等の機会、あるいは状況等をお伝えしながら説明をしてまいりたい。

かわなみ　質疑の内容は現場の先生へ伝わる？

市会でこのような質疑があり、このようなやり取りがあったというのは、教育委員会から現場の先生に何らかの形で伝わるのでしょうか？

河野教育委員会事務局担当部長からの答弁

大きな項目については校長会等で周知をするようにしているが、細かなやり取りまでは今、周知する仕組みは無いので、現場の先生の努力でこういうものを見ていただくといった状況。

かわなみ要望

ただでさえ教師の多忙化を言われてる中で、この委員会のやり取りを見る先生はあまりいないと思う。

委員会のやりとりの一部が切り取られて、校長先生への指導なり通達になっていくのかと思うのですが、簡単で良いので、市会であった『やり取り・発言』を箇条書にして伝えていただかないと、この場だけの空気感で終わってしまう気がします。『市会でこういうことが話題になったよ』と、ぜひ学校の先生に伝えていただきたいと思います。

かわなみ質疑　ＰＴＡの在り方について

ＰＴＡは子どもたちの成長や地域の教育環境の改善・充実を図るために活動する団体であり、保護者が学校と話し合いながら子どもたちのことを一緒に考えることのできる活動として果たしてきた役割は大きいものがあると感じています。

一方で、共働きの家庭の増加によりＰＴＡ活動を負担に感じる保護者が増え、特にＰＴＡ活動は母親が担っていることが多いことから、
働く母親にとっては大きな負担になっています。

今後のＰＴＡの在り方としては、
働く人もそうでない人も、
母親も父親も、誰もが参加できる範囲で参加でき、
学校と一緒になって子どもたちの成長を見守ることのできる
団体を目指すべきものだと考えます。

今後のＰＴＡの在り方とその役割、意義について見解をお尋ねします。

また、既に負担軽減を図ったＰＴＡもあるとお聞きしますが、どのような事例があるのか。また、そういった事例を他のＰＴＡにも共有して、広げていくことが必要だと考えますが、いかがでしょうか。

**パトロールを少なくしたり等
いろいろな取組をされてるのは理解しました。**

かわなみの視点

ＰＴＡは子どもの成長を願って、保護者と教職員が共に学び、活動するための団体です。子どもに寄り添い、子どものための地域の組織であるはずが、上部団体での活動、会合があれば、対外活動が苦にならない保護者にはよいのかもしれませんが、多くの保護者は仕事を持って、ボランティアで参加しており負担になります。

そもそものＰＴＡの目的が『自分の子どもと地域の子どものための団体』と考えれば、上部団体の講演会や研修会への参加などは、ＰＴＡの守備範囲が広がり過ぎていたのかもしれません。

上部団体であるＰＴＡ協議会を脱退したＰＴＡに関しては、講習会や研修会への動員がなくなって、ＰＴＡの会費を本来の子どものための事業で使うことができます。ＰＴＡの本来の姿、つまり、あくまで自分の子どもを含む地域の子どもたちの健やかな成長を支えるため、活動しやすくしてほしいですし、ＰＴＡが活動しやすくなるように、教育委員会としても学校を通じて支えていただきたいと思います。

長谷川教育委員会事務局長からの答弁

ＰＴＡには『保護者の意見を学校へつなげる橋渡し的な役割』や、『学校園だけではできない子どもの安全を守る役割』など、『学校園と協力して子どもたちの健やかな成長を図っていただく大変重要な役割』を担っていただいていると認識している。

一方で、共働き世帯が増加するなど、家庭環境やライフスタイルが大きく変化していく中で、従来と同様に活動していただくことの困難さは、我々も理解している。

本来学校園が実施すべきことをＰＴＡにお願いしている事例がある。

例えば、
◎行事の受付➡趣旨に照らして学校園において実施するようにする
◎パトロール➡参加いただける保護者の人数に応じて回数を減らす
◎広報紙➡実際に印刷をせずにホームページに掲載する

など、いろいろ工夫をしながら負担軽減を図っている。

事例の共有については、各校園での取組事例を各学校園へ周知させていただいているところですし、ＰＴＡとも情報共有は図っているところでもある。こういった取組事例を紹介した動画を、昨年 12 月から１月に学校園の管理職やＰＴＡの役員等に御覧いただくなど、情報の共有も図ってきたところである。

児童・生徒の健全な成長については、学校園だけでなく、やはり『ＰＴＡや地域の力も頂きながら進めていくことが必要』であると考えておりまして、今後もより多くの保護者の皆さんが参加しやすいものとなりますように、取組事例を共有するなど、各ＰＴＡの活動を精いっぱい支援してまいりたい。

かわなみ質疑　小学校給食の施設整備について

将来的な小学校給食の提供に関する考え方については、今後の児童数の動向や、校舎の老朽化の進行、学校施設等の有効活用など、様々な観点から検討していく必要があります。

かわなみの視点

今後、有識者の意見も聞きながら検討するとのことですが、将来、児童数は減少することが確実であり、学校施設や共同調理場の有効活用といった観点から、今後の検討にあたっては、共同調理場や近隣校からの配送などの提供方法についての検討も必要かと考えます。

仮に共同調理場を利用すれば、給食室と配膳室とでは配膳室のほうが少ない面積で済むため、
残ったスペースを子供たちの他の施設などに
有効利用することも可能となります。
今後の給食室の整備の考え方について、
見解をお尋ねします。

長田教育長からの答弁

全市的に児童・生徒数が減少傾向にある中で、小学校の給食施設につきましては、将来を見据えた適切な管理運営に取り組む必要があると考えている。

児童数の減少により、給食調理能力において一定の余力が生じてきている。また、同様に余力が生じている小学校の給食室もある。

これらも含め、資産・資源の有効活用を図っていく必要があると考えている。

こういった状況を踏まえて、現在、老朽化等に伴い、校舎の建て替え等を予定をしている、垂水・春日野小学校、港島学園については、給食室の整備を行わないこととし、適切な給食提供方法の検討をしている。

学校外から給食を配送する場合は、配膳室が必要だが、配膳室は給食室と比べて２分の１から３分の１程度のスペースで済む。この生み出されるスペースを活用し、例えば多目的室であるとか、あるいはカウンセリングに使用する相談室、こういったものを設置することが考えられる。子どもたちの教育環境の向上につながるように、新たに生み出されるスペース、これを有効に活用していきたい。

学校施設や共同調理場の有効活用、また、新たに生み出されるスペースの活用、こういった点も十分に踏まえ、今後、有識者からもご意見を伺いながら検討を進めていきたい。

かわなみ要望

**共同調理場の利用でスペースが空くなら
子ども達が日本文化に触れる
畳の和室を設置して欲しい**

共同調理場などが利用されると、学校にスペースができて、建物規模を縮小するのではなくて、子どものための用途に利用してほしいと思います。

多目的室やカウンセリング室ということがありましたが、私からの提案といたしましては、学校に畳部屋を用意していただいてはどうかと思います。

マンションや戸建ての住宅でも和室が本当に少なくなっております。日本の文化を学ぶため、例えば習字や絵画、お茶やお花を和室、畳の部屋で触れる、習うということは、なかなか今の家ではできないことではないでしょうか。果たして正座ができる児童生徒は何人いるでしょうか。

共同調理場を検討するなら、空いたスペースをどう有効利用するのかを同時に検討するように要望、また、その際には畳の和室の学校設置を要望します。

かわなみ要望

**給食食材の廃棄を
減らす取組について**

コロナ禍により学校閉鎖の数が非常に多かったことも影響し、廃棄せざるを得ない食材があったとお聞きしています。例えば、指定した場所に運べば、教育委員会が責任を持って寄附先を探すといったような仕組みをつくるなど、廃棄をなくすように努力すべきだと考えます。

食を扱う業者さんが、自ら廃棄処分をしたり行き場を探したりする手間を避けてあげてほしいと思いますので、ぜひ検討、支援をよろしくお願いします。